

通常総会・特別講演

岐阜県自然共生工法研究会では、毎年研究会年度初月の6月に通常総会を開催し、会員の方々に前年度の活動結果と当該年度の活動計画についての承認を頂いて活動を継続しています。

本年は、令和7年6月25日（水）に不二羽島文化センタースカイホールにおいて、1050名（うち委任状592名）の参加を得て開催しました。

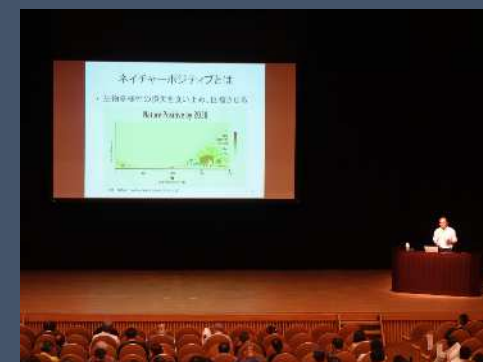
総会後には、自然との共生に関する種々の活動や最新の話題に接する特別講演の場を設けています。

本年度は、(国研)土木研究所・流域水環境研究グループ長 中村 圭吾氏から「ネイチャーポジティブを目指す川づくり」、前年度は、NP0法人 e-plus 生涯学習研究所 代表理事 小林 由紀子氏から「川のアクティブラーニング ～楽しく気づき川と地域を自分事にする水環境学習の体系化～」と題してのご講演をいただきました。

会報誌には近年のご講演録が掲載されており、会員専用のホームページでも閲覧をしていただくことができます。



通常総会



特別講演

ボランティア長良川清掃活動

本研究会では、川を訪れた人々が、そこに美しい風景のあることを改めて感じいただき、楽しい記憶の一つとして残してもらえるように、県のシンボルでもある長良川の岐阜市内・長良橋上流左岸河川敷において、新型コロナウイルス禍の時期を除き、毎年7月に百余名の会員が清掃活動を実施しています。

本年度は、令和7年7月19日（土）に、111名の会員で実施しました。右の写真はその様子です。



魚類生息・植物生育環境勉強会

本研究会では、会員の自然共生工法に関する基礎からより高度にいたる知見や技術の充実など、自己研鑽の一助となるよう、設立以来、専門家による魚類生息環境と植物生育環境についての勉強会を開催してきました。

本年度は、令和7年10月1日（水）に、岐阜市自然環境の保全に関する条例で特別保全地区に指定された「達目洞ヒメコウホネ特別保全地区（岐阜市）」を会員14名が訪れて、自然との共生の取組である貴重種の保全と植物生育環境との係わりについて、座学と現地説明で勉強しました。

座学では、達目洞自然の会 代表 加納一郎氏から、達目洞全体における生物多様性の保全に努められている同会の活動内容とその自然環境の現況についての講義を、ついで、本研究会で指導的活動を続けられている近藤 慎一氏から、達目洞の動植物とその背景である岐阜市の自然環境と生態系についての講義を受け、最後に、本研究会 理事 木呂子 豊彦 人材育成部会長から、コウノトリを呼ぶ荒川流域の自然再生という最新の話題提供がありました。



座学での講義



達目洞での説明

岐阜県自然共生工法写真コンテスト

本研究会では、平成15年から、県内各地で進められている自然共生への様々な取組の中から、施工後の自然環境の回復・復元が良好な事例や優れた活動の良い取組がなされている事例について、それらを表した写真の募集によるコンテストを開催し、岐阜県『自然共生』事例発表会において表彰式を行っています。

令和7年度では25作品、6年度は17作品の応募があり、多くの優れた写真の応募がありました。これらの6枚の写真は、令和7年度の実賞作品になります。



最優秀賞



最優秀賞



優秀賞



表彰式



佳作



佳作



佳作

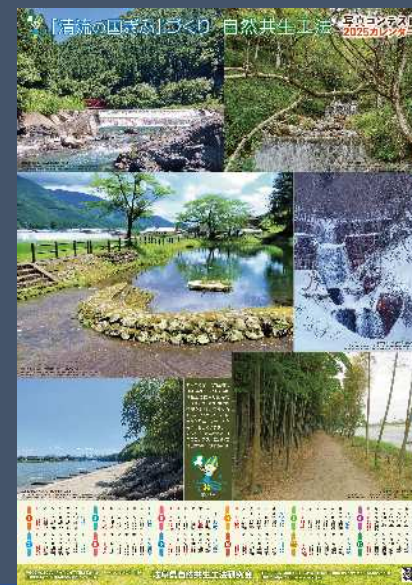
会報誌「自然と共生」の発行

岐阜県自然共生工法研究会では、会報誌を発刊しています。研究会員の方は、インターネット上の研究会ホームページの会員専用サイトにおいて、過去の会報誌を閲覧することができます。



カレンダーの制作

自然共生工法に関する取組について、より多くの方に知っていただくため、岐阜県自然共生工法写真コンテストの入賞作品を用いたカレンダーを制作しています。右は2025年のカレンダーです。



最近の話題についての勉強会

これまでの勉強会では、主に、個々の箇所で自然共生への取組の基礎となる魚類生息や植物生育の環境について学んできました。一方で、昨今の地球温暖化とそれに伴う気候変動など、人類の活動が気象災害・水災害を激化させるとともに、生物の生息生育環境の劣化を招き、生態系の変容が、国内外各地で顕著に見られるようになりました。

これを受けて、SDGs、ネイチャー・ポジティブ、あるいは、流域治水、流域総合水管理など、自然との共生とも密接に係わる国際的、国内的な取組が進められてきています。このような最近の動向についての会員の理解の一助となるよう、これらに関する話題についての勉強会を昨年度から開始しています。

昨年度は、令和6年12月3日(火)に岐阜大学工学部において、11名の会員が同学部社会基盤工学科 教授 小林 智尚 氏から、地球温暖化のメカニズムと気象災害との関わりについての講義を、ついで、本研究会 理事 木呂子 豊彦 人材育成部会長から、地球温暖化と建設分野との関係に関する講義を受けたあと、小林研究室と観測施設の見学をさせていただき、小林教授から説明をいただきました。

本年度は、令和7年11月28日(金)に、35名の会員が名古屋大学大学院人文学研究科 准教授 石川 寛 氏から「高木家文書(江戸期の膨大な史料)から学ぶ木曾三川流域の治水」についての講義を受け、木呂子 人材育成部会長からの「流域治水から流域総合水管理へ」の話題提供のあと、意見交換を行いました。



女性優先現地見学会

建設業における自然共生の取組や研究会活動について、女性の方々の関心を高め、加入頂くことを目的に、平成30年度から「女性優先現地見学会」を開催しています。

昨年度は、令和7年1月21日(火)に大垣市情報工房において、講師に(国研)土木研究所 自然共生研究センター 主任研究員 林田 寿文 氏をお招きして、現場における施工管理や計画・設計に向けた調査などの更なる効率化、充実化に関する新たな技術とその自然共生工法への導入をテーマとして、11名が座学で「バーチャルツアー」「LiDARによる3Dスキャン」の基本的な操作や活用方法等の概要について学習しました。その後、大垣市役所近くの水門川において実施した、360度カメラ撮影やiPhoneによる3Dスキャンのデータを室内に持ち帰って、バーチャルツアーの作成実習を行いました。

その後、民間で自然共生の活動を行っている川合理事と清水理事からの座学における話題提供を基に、参加者各々の業務の課題や職場環境等について、意見交換を行い、それぞれの課題についての認識を深めました。

本年度は、令和7年12月17日(水)に、木曾三川公園管理センター 138タワーパークと公園内の北派川モデル河川実験場において、植物発生材の資源活用や処理経費削減などで注目されている「バイオネスト」や川の変化などについて学ぶ予定です。



魚道に関する調査・研究

本研究会では平成23年度から、研究専門部会に魚道研究専門WGを設置して魚道に関する専門的研究を開始し、平成29年6月からは研究部会として、水生生物がすみやすい河川環境を再生・創出する上で重要な移動の連続性を確保するために、学識者や岐阜県と協働して魚道に関する調査・研究に取り組んでいます。

本年度は、令和7年10月8日(水)・9日(木)の両日、部会員と県職員の15名が参加して、木曾川水系の牧田川の2箇所、鴻之巣頭首工(大垣市)と田村頭首工(大垣市)の魚道において、魚道機能回復の簡易作業を行い、ついで、地獄網を設置した後、魚道カルテを用いたモニタリング調査手法を習得しました。調査は、カルテに基づく点検、たも網採捕による生息魚種調査、地獄網設置による遡上調査の3項目について実施しています。



鴻之巣頭首工



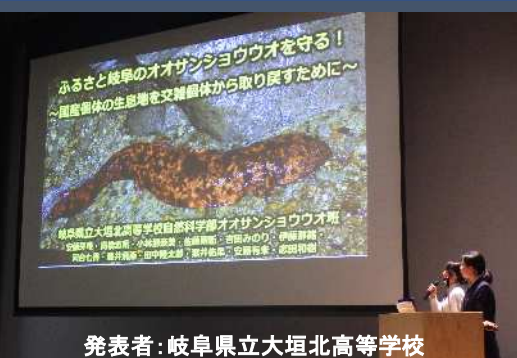
田村頭首工

各団体との共催事業

岐阜県自然共生事例発表会（岐阜県との共催）

岐阜県自然共生工法認定制度の中止を受け、その成果のフォローアップによるハード・ソフト技術の向上を目的としての平成15年から、岐阜県自然共生事例発表会を岐阜県とともに開催し、本年度で第13回を迎えています。

第13回は、令和7年10月31日（金）に岐阜県庁ミナモホールでの初めての開催となり、WEB参加の109名を含めた313名が「研究・技術部門」の5事例、「行政部門」の6事例、「教育・地域部門」の6事例の発表に真剣に耳を傾け、発表後の質疑に加わりました。審査委員会では、それらの結果に基づき、3部会体制で審査を行い、以下のとおり、いずれの部門とも、最優秀1発表、優秀2発表を決定して表彰しました。



研究・技術部門

○最優秀賞

テーマ：「ダム下流の環境評価ツール」

発表者：自然共生研究センター 宮川 幸雄 氏

○優秀賞

テーマ：「木曽三川の「ワンド」は減っているのか」

発表者：自然共生研究センター 大石 銀司 氏

○優秀賞

テーマ：「環境DNAからみた木曽三川の魚類相」

発表者：自然共生研究センター 向井 雄紀 氏

行政部門

○最優秀賞

テーマ：「持続可能な自然共生川づくりに向けた人づくりの取組み」

発表者：岐阜県県土整備部河川課 河村 一輝 氏

○優秀賞

テーマ：「内ヶ谷ダム建設事業におけるアマゴの産卵床造成について」

発表者：長良川上流河川事務所 田中 伸幸 氏

○優秀賞

テーマ：「希少猛禽類に配慮して事業を進めるための検討・手法」

発表者：越美山系砂防事務所 小栗 奨也 氏

教育・地域部門

○最優秀賞

テーマ：「ふるさと岐阜のオオサンショウウオを守る」

発表者：岐阜県立大垣北高等学校 オオサンショウウオ班

○優秀賞

テーマ：「ビオトープ「飛騨の森再生」プロジェクト」

発表者：岐阜県立飛騨高山高等学校 自然環境班

○優秀賞

テーマ：「守れ！ふるさとのヤマトサンショウウオ」

発表者：岐阜県立岐阜高等学校 生物班

岐阜県自然共生川づくり勉強会（岐阜県）

自然と共生した川づくりを推進するため、平成22年度から河川を題材とした「自然共生川づくり勉強会」を実施しており、“豊かな森づくり・清らかな川づくり”を推進してきました。令和6年度は、木曽川水系の石田川と川浦川の2河川で実施し、それぞれ、ベストリバー事業とかわまちづくり事業の具体例について学びました。

第1回

開催日 令和7年1月30日（木）

場所 木曽川水系石田川（岐阜市）

参加人数 48名

室内講義

○石田川におけるベストリバー事業の取組

講師 岐阜県岐阜土木事務所 小枝 幸真 氏

室内講義・現地実技

○“自然の営力”を見越した川づくり、“石”を用いた小さな自然再生

講師 岐阜大学 教授 原田 守啓 氏

自然共生川づくりを実践した川（石田川）の設計や施工の考え方を学び、施工現場を調査してその効果を確認するとともに、新たな工夫を加える現地実技を行い、理論と実践とを結びつけ、洞察力、分析力及び問題解決能力の向上を図りました。



第2回

開催日 令和7年2月25日（火）

場所 木曽川水系川浦川（富加町）

参加人数 31名

室内講義

○かわまちづくり事業の概要

講師 岐阜県県土整備部河川課 河村 一輝 氏

○川浦川における多種魚類に適した魚道整備

講師 岐阜県可茂土木事務所 今井 雅人 氏

川浦川で実施しているかわまちづくり事業を題材に、自然と共生した川づくりの一環として設計・施工の考え方を学び、実際の施工現場を見学することで、新たな視点を得るとともに、多種魚類に適した魚道について知見を深めました。

